

第110回役員会議事要録

日時：2019年2月28日(木)10：00～

会場：大学本館E-703会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、清田理事、片山理事、柳井理事、梶原理事、田上理事
(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

議案

- 1 北九州市立大学学則の改正について
- 2 ウォーターフォード工科大学との大学間協定等の締結について
- 3 アイルランド国立大学ゴールウェイ校との学生交流協定の締結について
- 4 シンガポール経営学校との大学間協定等の締結について
- 5 公立大学法人北九州市立大学におけるハラスメントの防止に関する規程の一部改正について

報告

- 1 教員の採用・再任について
- 2 2018年度北九州市立大学職員採用試験結果について
- 3 2019年度一般選抜入学試験志願者数について

議案1 北九州市立大学学則の改正について

<質疑応答>

[監事]

○教育職員免許状の規程等は、規程の別表で変更されるのか。

[事務局]

○その通り、別表で変更する。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 ウォーターフォード工科大学との大学間協定等の締結について

<質疑応答>

[理事]

○英米圏からの交換留学が難しいのは、どういった理由か。

[副学長]

○本学の学費が年間50万円程度に対して、アメリカでは年間300万円から600万円である。そのため、ビジネス的に成り立たないことから、交換留学から派遣留学への切り替えが進んでいる。

[理事]

○アイルランドは、学費が安いのか。

[副学長]

○安くはないが、アメリカよりは本学との差が少ない。今後、アメリカと同じような状況になる可能性があるため、まだ交換留学を受け入れてもらえるうちに5年間の交換留学枠を確保したいというもの。

[理事長]

○海外協定校からの留学生数に対する本学からの留学生数を調整し学費の差を埋めることはできないのか。

[副学長]

○いろいろと交渉はしているが、首都圏や関西圏に優先的に学生が割り当てられることや、こちらでも、沢山の学生を受け入れる土壌がないというのが実情である。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案3 アイランド国立大学ゴールウェイ校との学生交流協定の締結について

<質疑応答>

[理事]

○本学以外の日本の大学と交流はあるのか。

[副学長]

○いくつかはある。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案4 シンガポール経営学校との大学間協定等の締結について

<質疑応答>なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案5 公立大学法人北九州市立大学におけるハラスメントの防止に関する規程の一部改正について

<質疑応答>

[理事長]

○ハラスメントについて、申し立てのあったケースはあるか。

[副学長]

○平均して年間2件ほどある。

[理事長]

○学生か教職員か。

[副学長]

○学生、教職員のどちらもある。

[理事長]

○申し立てがしやすいかを問うアンケートを取ることはできないか。弱者を守るために申し立てしやすいようにしていくことも考える必要がある。

[副学長]

○学生には、まず制度を周知する必要があるので、初年次教育でPRすることを考えている。教職員は、新任研修で周知しているので、次は学生への周知をしていきたい。

[理事長]

○そこからさらに、制度が使いやすいかアンケートをとるところまで踏み込んでもらいたい。

[監事]

○誰に相談したらいいのか事前に分かるのか。

[副学長]

○相談員一覧を毎年作成して周知している。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 教員の採用・再任について

<質疑応答>なし

報告2 2018年度北九州市立大学職員採用試験結果について

<質疑応答>なし

報告3 2019年度一般選抜入学試験志願者数について

<質疑応答>なし

[理事長]

○地域創生学群の倍率が常に高いようだが定員を増やさないのか。

[副理事長]

○過去に一度増やしている。

[理事長]

○それでも高いが、地元志向が強い学生が集まる学科なのか。

[副理事長]

○志願者は、北九州からだけでなく福岡やいろいろなところから来ている。

[理事長]

○地方創生の観点から、ローカルで頑張ってくれる人材が増えるといいと思う。